

“絆” 地域との連携 保護者との連携 教員同士の連携

ねがい

＜目的＞

児童・生徒の自尊感情と相手意識は、周囲の大人たちとのコミュニケーションで醸成されます。そこで、まずは大人たち自身がつながりを深める必要があります。香東中校区では、地域・保護者・教員が互いにつながりあえるように様々な「絆」活動を実施しました。

● 地域・保護者・教員が顔を合わせる「校区合同あいさつ運動」

つながり

地域、保護者、教員が合同であいさつ運動を実施。あいさつ運動を通して、児童・生徒はもちろんのこと、大人たちも互いに顔をあわせることができます。オハッピーくんも盛り上げてくれました。



【オハッピーくんも参加】



【地域合同あいさつ運動】

● 地域人との接触が「相手意識」を育てる

寿会の方を指南役に清掃を学ぶ川岡小、円座づくりの達人から郷土の誇りを学ぶ円座小、檀千人窯 800 度の神業から畏怖の念を学ぶ檀紙小、職場体験学習を通して相手への気配りを学ぶ香東中。どの活動も地域の方々の力を借りて「自己中心」的考えから相手の存在を意識する「自己抑制」的思考を育みます。



【寿会の方から学ぶ】

● お互い顔の見える距離で「香東中校区合同夏季研」

校区内の幼小中の教員が一堂に会し、子どもたち同士のコミュニケーション能力を高めるための手法について、顔が見える距離で、ともに学ぶともに意見を出し合いました。特に、中学教員にとっては、生徒が小学校や幼稚園の時に世話になった先生にお会いするのは、本当に意味のあることです。



【初の幼小中合同夏季研修】

● 学校広報の充実 知ってもらおう努力



【小学生に勉強を指南】

中学生が職場体験で小学校を訪問し、勉強を教えたり、遊んだり。子ども同士のつながりも重視しています。まさに「母校に貢献」です。このような活動を、小中学校ともにホームページやブログなどを最大限駆使して、地域や保護者の方々に知ってもらおう努力をしています。

【学校広報のための公式ブログ】



高まり

＜成果＞

小中連携といってもお互い顔も知らない組織同士が連携できるはずがありません。生徒や児童への働きかけの前に、子どもたちに関わる大人たちがつながり合えなければ、子どもたちの思いやりの根本となる「相手意識」や前向きにチャレンジする原動力となる「自尊感情」は育ちません。今回の“絆”活動は、地域・保護者・教員同士がつながりを深めるスタートとなりました。